

群馬県立富岡高等学校 学校評価一覽表① (令和4年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			担当	第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策		自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	黒門キャリアプランやコース制について満足していると答える生徒が90%以上である。	文理、コース、科目選択の説明会や定期的に行われる面談を通して、生徒・保護者へ説明し、本校の教育方針の理解を深める。	A 100%	C 生85% 保88%	生徒指導部や進路指導部と協力して、本校の教育活動の共通理解を図る。組織的な指導体制についての検討を行う。	教務			
		総合的な探究の時間（課題解決型インターンシップ、探究活動など）に主体的に取り組んだと答える生徒が80%以上である。	自分で考えて就業体験先や探究活動のテーマを設定できるように事前指導を行う。全体計画を説明し、生徒に目標を持って行動させる。	A 100%	A 生95% 保86%	探究部と各学年が協力して計画的な指導を行い、生徒は主体的に探究活動に取り組むことができている。保護者にも活動内容が伝わる工夫を検討する。				
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 学習と特別活動（部活動・ボランティア等）の両立を目指した教育を推進していますか。	学習外の活動を主体的に行えたと答える生徒が80%以上である。	特別活動、部活動、ボランティア活動を生徒主体で活動できるように計画し、生徒の活躍の場を設ける。	A 94%	B 生80% 保85%	学習外における活動の意義を周知し、生徒の活動を促す。さらに活動内容が充実するような工夫を検討する。	教務			
		3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	主体的に学習に取り組んでいると答える生徒が80%以上である。	シラバスを活用し、計画的に授業を進める。授業の目的を明確にし、生徒に主体的な学習を促す。必要に応じてICTを活用し、生徒の理解を深める工夫をする。	A 90%	C 生79% 保74%		指導内容・方法の適正化をはかり、生徒が充実感を得られる授業改善を行う。学習方法の段階的な指導についての検討を行い、育てる指導につなげる。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	進路目標に応じた学力を身につけたと自己評価している生徒が80%以上である。	各教職員が授業改善に努めるとともに、サクセスシステムの取組を着実にし、生徒の進路実現を可能にする学力を身につけさせる。	A 95%	C 生74% 保68%	各教科で授業改善に取り組むとともに、進路指導部では今後の課外補習や黒門道場、自主学習会等のあり方を見直していく。	進路			
		5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	企画会議、学年会議、各分掌会議等でえた生徒に関する情報を生徒指導部生活係会議（月3回実施）で集約する。	企画会議、学年会議、生活係会議はそれぞれ週一度程度計画する。	A 100%	B 生86% 保78%		引き続き、定期的・計画的に情報交換を行い、早期発見と早期対策に努める。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	平常時においても、いじめ防止対策委員会を月1回開催し、問題の早期発見、早期解決、組織的な対応に努める。	保健教育相談部、学年との連携を密に行う。その情報を委員会で共有し、場合によっては外部機関の協力を願う。	A 100%	A 生98% 保87%	日常の学校生活のあらゆる機会・場面を通じて、より良い人間関係の構築につながるように心掛ける。コロナ禍における生徒の変化に敏感に対応する。	生徒指導			
		7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	生徒の出席率が95%以上である。	常に生徒の出席状況、SC利用状況、保健室利用状況、図書館利用状況等を確認し、問題の早期発見に努める。保護者連絡を密に行い、家庭との協力をはかる。	A 92%	B 生82% 保85%		夏期休業明けに生活の乱れを生じている生徒が見られる。また、メンタル不調による欠席者もいる。多方面からのアプローチで支援を続けていく。		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	ドリームプランの様々な企画（課題解決型インターンシップ、探究活動など）が、自分の進路を考えるために役立つと思う生徒が80%以上である。	ドリームプランの各企画の意義を理解させる指導を十分にし、生徒が自身の進路について主体的に考え、具体的な方向性を持つような取り組みを展開する。	A 98%	A 生82% 保85%	現状の黒門キャリアプランをベースに、外部講師の助言や各学年の教員・生徒の意見（課題解決型インターンシップや探究活動発表会に対する感想）などを分析し、積極的に改善していく。	探究			
		9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	進路実現に向けて、計画的に学習に取り組んでいる生徒が80%以上である。	生徒に関わる全ての教職員が進路実現のための共通した認識を持つとともに、面談等を通じて保護者と情報を共有し、授業や家庭学習、課外補習等に主体的に取り組ませる。	B 87%	C 生67% 保65%		職員の共通認識のもとに、課外補習等の改善や生徒が記録する黒門手帳のあり方、模擬試験等の効果的な事後活用法の検討など、生徒が取り組みやすい形に改善していく。		
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	学校の様子や生徒の様子がよくわかると考える保護者が80%以上である。	新聞部、各分掌と連携を図りWebページの充実を図る。保護者、生徒にはHPの更新をメールで知らせ、情報提供と閲覧数を増やしていく。	A 95%	C 生76% 保67%	三者面談で保護者から、メール連絡が頻りにあり、ありがたいという声があった。今後も効果的的確な情報発信を心がけていきたい。	渉外			
		『黒門通信』を年間12回発行し、中学生向けの『富高通信』も月1号程度作成する。	従来の『富高通信』を『黒門通信』として保護者向けのものとするともに、中学生向けの『富高通信』も作成し、ともにHP上に掲載する。	A 84%	C 生79% 保78%	『黒門通信』は今のところ月1号作成できている。今後も中学生に向けて、本校をより理解してもらえようような内容を企画し、タイムリーな情報提供をしていきたい。				
VII 特別な支援を要する生徒への適切な対応を行っていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	ICT機器を授業で効果的に使用できている職員を80%以上にする。	グーグルドライブ内に共有フォルダを作成し、生徒・教員間のファイルのやり取りをスムーズにする。また、ICT機器の管理をしっかりと行い、機器の不調や、付属品の不足ができる限り起こらないようにする。	C 76%	A 生90% 保86%	グーグルドライブ内の共有フォルダについては、効果的に使用している先生もいて、成功であったといえる。職員のアンケートの数値が低いので、他にも活用方法の案があれば示していきたい。ICT機器に関しては継続して管理をしっかりとしていきたい。	教務			
		12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	ICT機器を活用した業務改善を昨年度より多く試み、ICTを活用した業務改善を行っていると感じる職員を80%以上にする。	グーグルチャットを用いたの情報共有を推奨する。また、学校評価・授業評価アンケートをスプレッドシートを用いて行う。さらに観点別評価に対応したミスが起こりにくいシステムやルールを構築する。	A 97%	A 生85% 保98%		グーグルチャットについては使用している分掌もある。メリット・デメリットについて考えていきたい。観点別評価の成績処理については、スムーズな処理ができた。2学期にはマニュアルを修正してよりわかりやすくしていきたい。		
VIII 特別な支援を要する生徒への適切な対応を行っていますか。	13 学校への適応等その他で悩んでいる生徒、特別な支援を要する生徒に適切な対応をしていますか。	悩みを抱える生徒及び特別な支援を要する生徒を90%以上把握している。また、把握した生徒については全てについて適切な対応に取り組んでいる。	生徒理解調査（年3回）の内容を、生徒が学校や教職員に悩み等を訴えやすいよう継続して見直す。また、本校教職員だけでなく、SCや外部機関との連携を通して、より適切な対応が取れる体制を整えていく。	A 100%	B 生85% 保83%	外部機関との連携の機会が増えて、昨年より改善できている。今後も生徒と保護者へのこれらに関する情報発信・提供の頻度を高め、その方法を工夫して、本校の取り組みについての理解を高めていく。	保健教育相談			